

# 人の心に寄り添い希望を送る弁護士にあきらめずに掴んだ私の夢

私は幼い頃から母子家庭で育ちました。母は3つの仕事を掛け持ちして、私たち兄弟3人を必死に育ててくれました。裕福ではありませんでしたが、どんなときも優しく、困っているのを見たと放ってはおけない太陽のような母のお陰で、仲良く明るい家庭で幼少期を過ごしました。

高校生になった私は反抗期を迎え、友達の家に入り浸り、家に帰らない日が増えるようになりました。ほとんど受験勉強をしないまま地元愛知県内の大学を受験し、案の定不合格。今後自分の人生はどうなるのだろうと、不安な気持ちのまま高校を卒業しました。



石黒 智子 さん (経営学部 2013年卒業)

人生をあきらめていました。努力することから逃げてきた自分の人生は良いものにはならないと思いこんでいました。

**「今から、ここから」夢に向かって挑戦**

私の心中を察した母は、創立者のことばを紹介し、励ましてくれました。「過去を嘆く必要はない。今から、ここからの決意で、どんな人生にも変えていける」。私ははっとしました。小学生の頃、母が一番悩んでいたとき「相談したらこんなに心が軽くなるなんて、弁護士って本当にすごい仕事だね」と話しており、将来は私も弁護士になりたい



**二度、特待生に採用 念願の法科大学院へ**

経済的な余裕はありませんでしたが、貸与奨学金を利用して、創価大学給付奨学金に二度採用していただきました。副寮長をしている

と思っていたことを思い出したからです。自分の夢から目を背けていたことに気づき、もう一度夢に挑戦しようと決意しました。一年間の浪人生活は本当に大変でしたが、創価大学経営学部合格することができました。

大学に入学後は、必死に勉強しました。3年間も寮生活をさせていただき、3年次には副寮長として寮生のために尽くしました。寮の友人たちと夢を語り合い、ともに学び、ともに笑った時間は、かけがえのない宝物です。

ときには、二度、特待生にも採用され、安心して大学生活を送ることができ、無事、創価大学法科大学院に進学することができました。

法科大学院入学後は、想像よりも遥かに大変でした。法学部出身ではないため、はじめは授業にもついていけず、何度泣いたか分かりません。ですが、必死の努力の甲斐あって徐々に成績も伸び、成績優秀者として給付奨学金をいただくこともできました。

司法試験が近づくと、壁があまりにも高く感じられ、恐怖から勉強が手につかなくなりました。司法試験は4日間にわたって実施されます。一度目も二度目も、試験の途中で「もうだめだ」と思ってしまい、その後の試験をあきらめてしまっていました。

三度目は、最後の瞬間まで絶対にあきらめないと決めて挑戦。しかし、ある試験科目で大失敗をしてしまいました。もうだめかもしれないと思った時、お世話になっている先輩から「ここが勝負だよ」と励まされ、「今からバストを尻くそ」と奮起。晴れて司法試験を突破することができました。昨年、司法修習を終え、現在は弁護士として都内の法律事務所に勤務しています。

私を信じてくれる人がいた

高校生の頃、私は私の人生をあきらめていました。ですが、母は私の人生をあきらめませんでした。私が家に帰らなかつたときも、母は校門や友人の家の前で、何時間も私のことを待ち続けてくれました。私を見つけては「おいしいものを食べにいこう」と。一度も叱らず、私の声に耳を傾け、笑顔で包み込んでくれました。私が自分の可能性を信じられなくても、母は私のことを信じてくれました。私が自分の人生から眼を背けても、母は私と向き合い続けてくれました。今、私の胸に光る、夢にまで見た弁護士ハッジは、母の「あきらめない勇氣」の結晶です。

これからは、私が困っている人の心に寄り添い、希望を送れるような弁護士へと成長していきます。

**創大Days**

石黒さんの大学生活や司法試験への挑戦などさらに詳しく知りたい方は創価大学ホームページをご覧ください

お問い合わせ先 **創価大学 学生課 奨学金係**

☎ **042-691-2161**

FAX **042-691-9475**

平日/9:00~17:00 (土・日・祝日除く)

〒192-8577 東京都八王子市丹木町1-236

✉ **syougakukin@soka.ac.jp**



★奨学金の情報は本学ホームページにて詳細を公開しています。情報は今後更新される場合がありますので、必ずご確認ください。

▲本学奨学金ホームページ